



2017年
2月4日
No. 149

## 2017年度 東京蜘蛛談話会総会例会

1. 日時 2016年5月7日(日) 10時より(開場9時30分)
2. 場所 東京環境工科専門学校 〒120-0022 東京都墨田区江東橋 3-3-7  
JR 総武線 東京メトロ半蔵門線 錦糸町駅南口から徒歩3分
3. 連絡 当日は、東京環境工科専門学校の電話が使用できないので、緊急時には以下に連絡ください。  
加藤輝代子 090-7012-6458 初芝伸吾 090-6156-8378
4. その他 プロジェクター, OHP 等用意いたします。
5. 講演をご希望の方は、演題と使用希望機材  
(スライド, OHP, コンピュータ)  
を事務局初芝までお知らせください。

〒186-0002 東京都国立市東 3-10-8 コンフィデンス高垣 105  
有限会社エコシス 初芝伸吾  
mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.jp  
Tel : 042-501-2651 Fax:042-501-2652

- 錦糸町駅南口から徒歩3分です。



## 東京蜘蛛談話会 2016 年度採集観察会

1. 期 日： 第4回 2016年2月19日(日)
2. 場 所： 東京都町田市 芹ヶ谷公園
3. 集 合： 集合10:00  
小田急線町田駅西口の正面 「特急券うりば」前  
芹ヶ谷公園は町田駅から徒歩10分  
(町田駅を北上し町田街道47号線を越える)
4. 世話人： 池田博明  
携帯電話：090-9670-1525

## 東京蜘蛛談話会 2017 年度採集観察会

5. 期 日： 第1回 2016年5月14日(日) 第2回 2016年7月16日(日)  
第3回 2016年10月15日(日) 第4回 2017年2月18日(日)

2. 場 所： 行徳湿地

3. 集 合： 集合10:00 千葉県行徳野鳥観察会

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shizen/gyoutoku.html>

東京メトロ東西線 行徳駅 徒歩25分

東京メトロ東西線 南行徳駅 徒歩25分

京成バス(新浦安駅行またはハイタウン塩浜行) 行徳高校下車徒歩10分

JR京葉線 新浦安駅 京成バス(本八幡駅行または江戸川スポーツランド行) 行徳高校下車

※自家用車利用可(20台程度が利用できる無料駐車場があります)

※湿地入り口は施錠されていますので、集合時刻には遅れないようにお願いします。遅刻した場合には世話人加藤携帯電話までご連絡ください。

4. 世話人： 加藤輝代子

携帯電話：090-7012-6458



## 東京蜘蛛談話会 2017 年度合宿【予告】

2017年度の合宿は日本蜘蛛学会大会にあわせて、次のように行う予定です。

1. 期 日： 11月5日から7日あるいは8日まで
2. 宿 泊： 沖縄島 琉球大学与那フィールド(旧与那演習林)
3. 集 合： 現地集合解散
4. 世話人： 初芝伸吾・河野 涼

※詳細は次号でご案内します。

# 東京蜘蛛談話会例会

2016年12月4日 東京環境工科専門学校にて



参加者一同

(1) 野外実験クモ篇

池田博明



(2) 紫外線とクモ  
の関係

浅間 茂



(3) 流水上の網の付  
着盤

新海 明・谷川明男



(4) カトウツケオの  
観察事例と、誘引(?)  
の可能性について

新井浩司



通信原稿投稿先：谷川明男 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail : dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

通信の原稿締め切りは、4月末まで、8月末、12月末です。

(5) 4 種目のカノコ  
ハエトリ

須黒達巳



(6) 電子顕微鏡でみ  
たクモの微細構造  
(19) 一篩板類の前  
疣・中疣の出糸管の形  
について—

梅林 力



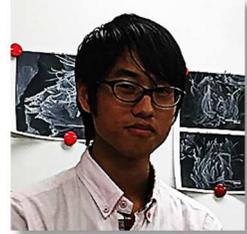
(7) クモの話題3つ

小野展嗣



(8) オナガグモの粘  
球糸作成における歩  
脚の動作の観

鈴木佑弥



(9) 地味なクモの話  
題

平松毅久



(10) トタテグモ下目  
の脚部形態の捕食行  
動と巣内の歩行の関  
連性

長野宏紀



## ジョロウグモ

加藤 康子

友人から電話がかかってきた。

「レモンをありがとう 自宅で育てたというだけあって 実は大きいし香りも強いね. それであなたにお礼をしようと思って, 今から行ってもいいかしら, あなたの大好きなものを見つけたのよ」

私の大好きなもの? いやしい私はすぐに食べ物を想像した. 私が一番好きなものといえば, りんごだ. 私はりんごには目が無い. リンゴがあればケーキも饅頭もいらぬ. カゴの中に赤や黄のりんごが, ごろごろしていさえすれば幸福になれる.

チャイムが鳴って, ドアの前には友人の笑顔があった. その顔の横にポリプロクロが揺れている. どう見てもりんごではないが, 彼女はそれをふわりと私の手に載せて言った.

「あなたが一番好きなものを持ってきたわよ」

「えっ? なに」

袋の口を開けてびっくり. 中で大きなジョロウグモが足をパタパタさせて跳んでいる. ヒュー—

ッ！まさか、ジョロウグモをプレゼントされるなんて思ってもみなかった。けど嬉しい。立派な雌のクモである。

見れば、もう腹部ははち切れそうに膨らみ、すぐにも卵を生みたそうにしている。私は庭に出て、みかんの葉の上にクモを放した。彼女はそりそりと足を動かして葉から枝へと移り、そこにつかま



った。弱っている様子は無いが動揺はしているはずだ。卵を生むために網を離れた途端につかまえて、つるつる滑るポリ袋の中で揺すられ、随分とうろたえたことだろう。落ちつくまで暫くはそっとしておこう。

私にとって、クモは特別な生きものだ。その色と形と動きを、ただ静かに見ているだけでも喜びはもたらされる。それにもまして、これから卵を生むとなれば、運よくその瞬間を観察できるかも知れない。私はウキウキとした気分になった。

そのとき 家の中から夫が出てきた。手持ちぶさたに空を見上げたり、鈴生りのみかんの実を眺めたりしていたが、急に思いついたように木のそばに脚立を立てた。そして、てっぺんから手を伸ばして パシッパシッと実を挽ぎ始めたのだ。枝が引っ張られるたびに、反動で木全体が跳ねる。枝先にいたジョロウグモはあたふたとなって今にも落ちそうだ。

「ちょっとー 何するのよー 今、わざわざみかん挽ぎしなくてもいいじゃないの、クモが卵を生む場所を探してるころなんだからー 刺激しないでくださいよ」

どうして急にそんなことをするのだろうか。“理解できない”と思った。

「おまえの趣味にいちいち合わせる気は無いよ。オレは今、どうしてもみかんが食べたいんだから」

夫は頭ごなしな調子で言い返してきた。苦虫を噛んだような顔をしている。

『クウーッ 偏屈オヤジ!』 と思ったが、そんなことはおくびにも出さずに、明るい声で話しかけた。

「ねえ、ジョロウグモをこんな直近で見たことある？ その辺の絵の具では手に入らないような色と奇抜な柄をしているのよ。こっちへ来て見てごらんよ。素晴らしいから」

すると夫は渋々ではあるが、脚立を下りてやってきた。ジョロウグモの細い足が支えている膨張した腹の中に、どれだけの小さな生命が息づいているのだろうか、その重みをかかえて、注意深く守り、生命を繋ごうとする姿を見る。小さな虫の すでに定められた行動に過ぎないとしても、その大人びた物腰は、なんともいとおしい。

夫の感受性にも触れるものがあったのだろうか。

「ウーン」

一言 唸り声を発すると、両手にみかんをかかえた夫は家の中へと入っていった。ジョロウグモはまた動かなくなった。それを見ていて、つくづく感じることもある。人間はどうてこうも短気なのだろうかということだ。彼女はいずれ 必ずどこかに卵のうを作るだろう。それは解っているのに、つい次へと心が逸ってしまう。自然への興味は もっとゆっくり思いをめぐらせないと続かない。クモのついやす時間を、人間の時間にあてはめてはいけない。私もそろそろ家に入ることにしよう。

明るる朝、みかんの木を見るとクモは姿を消していた。ぐると木を下から眺めてみる。何処へ行ったのかなあ・・・・・・・・

緑の葉とみかんの実のにぎやかな枝では、ジョロウグモの模様はまるで保護色だ。もしや葉裏に卵のうがあるかもと探してみたが、眩い太陽の光を受けて、葉も実も輝く朝に、一枚一枚を確かめるなんてとても無理だ。

入退会は：事務局 初芝伸吾 〒186-0002 東京都国立市東 3-10-8  
コンフィデンス高垣 105 有限会社エコシス  
E-mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

東京蜘蛛談話会の会費は、一般 2000 円、学生 1000 円です。  
**(会計状況の好転により、2015 年度分より当分の間、会費を値下げし、  
年会費を一般会員 2000 円、学生会員 1000 円とします。)**

会費は郵便振替口座 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会へお願いします。  
会費のことは：会計担当 須黒達巳  
〒240-0026 横浜市保土ヶ谷区権太坂 1-39-6  
TEL : 080-5683-2765 E-mail: t.s.schlegelii@gmail.com

※談話会の会費は前納制となっております。本号に請求書と振込用紙を同封いたしましたので来年度分までの会費の納入をお願いいたします

KISHIDAIA 原稿投稿先：池田博明 〒258-0018 足柄上郡大井町金手 1099  
E-mail : lbobef2100\_ik@nifty.com

あるいは

谷川明男 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail : dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

Yahoo box ID kishidaia PW spider にアップロードして、その旨を谷川までご連絡いただいても結構です

キシダイアの原稿締め切りは、6 月末日と 12 月末日です。

枝越しに ふと窓の上の庇が眼に入ったときだった。

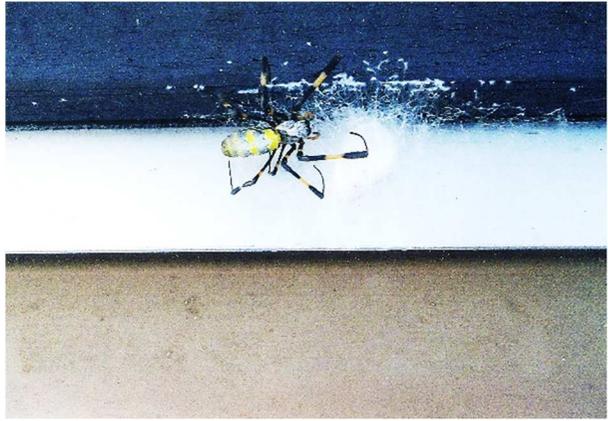
「あっ いた！」

庇の裏板にくっつきと長い脚が並んでいるのを発見。どうやらがさがさとした枝よりも、足場のしっかりした建物のほうが気に入ったらしい。でも彼女はまだ立ち止まってはいなかった。庇から柱へと移動し また位置を見きわめるかのように、庇の周辺をゆっくりとまわっている。彼女の中で、どんな試行錯誤があるのだろうか。人間には感じないほどのわずかな振動とか音でもするのだろうか、条件がそろっていないのか、ゆらゆらと歩みを進めてふたたび柱へ戻ると、逆さに取りつき、ようやく動きを止めた。迷うクモの“時”は ためらいがちに流れて、そのまま二日目も暮れた。

朝、目覚めると 私は一番に外へ出た。待ちわびたものはすぐに見つかった。窓枠と雨戸をまたいで、真白な糸の塊がかかっている。“卵のうだ”糸の密集の下の方に卵が透けて見える。その紅色は 中にある生命をイメージさせて、美しいが、クモの体内から出てきたばかりという生々しさも帯びていた。

哺乳動物のように、エネルギーを消費する興奮はないとしても、生み落とされた無垢の生命に、変わりはない。じっと観察する目になっていると、真白な糸の塊は、仄かな精気を発しているように感じられた。

母になったジョロウグモは ひとまわりふたまわり卵のうの周囲を歩いた。そして、そのまま窓枠に沿って卵のうから離れてゆく。疲れたのだろうか。おぼつかない足取りで、何度も落下した。私は手のひらに彼女を載せると、そばにあるジャスミンの蔓の絡まりにそっと降ろした。すると、ジョロウグ



モはしおり糸を引いて地面に着き、プランターの縁の窪みに辛うじてつかまった。そこで動かなくなった。やるべきことを終えた母は、どこか頼りなげで、静かで、やさしい。全身の色はくすんで、少しづつ憂いをにじませ、周りの草や土に溶けこんでいくかのようだ。

私は立ち上がると 窓枠と雨戸の上下を動かないようにガムテープでしっかりと固定した。来年の初夏の頃に 卵のうから子グモたちが出てくるまで、ずっとこの場所を見守ることにしよう。

